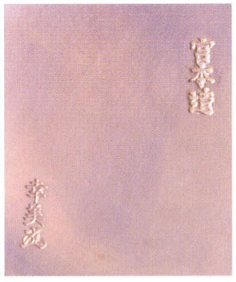
24　海野勝珉《猩々図花瓶》一対

明治四十二年（一九〇九）　四分一・銀／毛彫ほか
各D一六・〇、H二九・〇

謡曲「猩々」を主題として、主人公・高風が海中に住むという猩々に会うため潯陽の江で酒を用意して待っていると、猩々が現れて酒に酔う場面を、一対の花瓶に彫り出している。左の花瓶は、なみなみと酒が注がれた杯を持ち、顔に笑みを浮かべた猩々がゆるりと歩いてくる様子。髪の毛の質感を表すために極細の毛彫がほどこされ、対照的に身に纏う着物の輪郭は太い線で彫り出される。着物の波文様は髪の毛とも着物とも異なる線刻で表されている。右の花瓶は、酔ってくつろいだ様子の二人の猩々が左の花瓶と同様に数種の線彫で表されている。猩々の顔の部分を薄肉彫にして立体感を出し、顔をほころばせて酒を楽しむ人間味のある表情を見せている。そのほかに、本作の器形は、猩々が高風に授けたという酒壺を連想させるもので、上部から垂れ落ちているように見える銀地の部分は金工としては面白い表現であるが、陶磁器の焼成中に釉薬が器面を流下する「頽れ（なだれ）」にヒントを得た可能性も考えられる。

本作は明治四十二年の第四十四回日本美術協会美術展覧会にて一等賞金牌を受賞し、宮内省に買い上げられた。作品底面には、出品者である美術商・宮本勝（宮本商行）を示す「宮本造」と、器形を鍛造したと思われる「幸美（花押）」の銘がある。



・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺
三の丸尚蔵館展覧会図録No. 41

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成十八年九月二十三日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections